

NPO 法人ふわりで活動して

社会福祉学部保健福祉学科 2年 坪井 舞美

活動先：NPO 法人 ふわり

クラス：村上 徹也 先生

●積極的に動く大切さ

今回の活動では、NPO 法人ふわりが主催するおまつり会場に行ってから指示をされ、それぞれの活動に入るといった形をとっていた。指示は基本的には「ここのブースを任せよう。わからないことがあったら聞いてください。」の1つだった。私は、その日その日で担当するブースが違っていただけで、1日やれば次の日は慣れているから大丈夫という安心感がなかった。しかし、わからないことがあっても職員の方が忙しそうに走り回っているのを見るとどうしても1歩踏み出すことができずにいた。そして片付けの時も、得に何も指示されず1日目は何をしたいかわからずただ突っ立っていただけだった。その日の活動記録の担当者から「積極的に動かなくてはなにも変わらない」というコメントをいただいた。そのコメントを読み、私はとても貴重な時間を頂いているのに、自分から得ようとしなければ何も成長しないと思い、次の活動日から勇気をだして、自分からわからないことはきちんと質問をし、片付けの時も「これやりましょうか」などと自分で活動の中に入り込もうとした。その甲斐があって、残りの活動はとても有意義なものとなり、そして、職員の方だけでなく、利用者の方や、利用者の家族の方と少しずつ話せるようになった。この活動を通し積極的に動くことの大切さを身に染みて感じる事ができた。

●連絡の徹底

私たちのグループは3人グループで、2人が社会福祉学部のデイトイムで、私は保健福祉学科であり、そのうちの1人は自宅生で、私はバイトがとても忙しく3人が集まる事が出来る時間はとても少ないものでした。そのため、活動に入る前に行われる事前訪問も少し遅れてしまった。活動先との連絡ももちろん重要だ。しかし、活動を行うメンバー間での連絡がきちんととれていないと、結果活動先にきちんとした連絡ができないことになってしまう。今回の活動で、メンバー間の連絡をきちんと徹底しないといけないという点がとても重要だと気付く事ができた。

また、施設の職員さんたちの話のなかで、このお祭りには何か月も前から、地域の方との入念な打ち合わせと下準備と関係者との話し合いなどを何度も積み重ねて今の形があることを知った。話し合いや準備の段階で、少しでもすれ違いや思い違いがあるとお祭り自体が失敗に終わってしまうという話を聞きあらためて連絡の徹底の大切さを感じた。

●コミュニケーション能力の必要さ

上記にあげた「積極的に動く大切さ」「連絡の徹底」の2点には、コミュニケーション能力が必要不可欠だと考える。今回の活動で私は、職員の方と話す機会が多くあった。職員さんと話しているときに、職員さんが「むさうの職員は若い人が比較的に多いから、話しやすいし楽しい」と言っていた。私はその時に、利用者さんや地域の方とのコミュニケー

ションも重要なことだが、職員同士のコミュニケーションがとても大切であると気付かされた。その主な理由が、職員同士できちんとコミュニケーションがとれているから、臨機応変に対応ができる事。そして、きちんと役割分担がされており、全体を見渡す人が全部のブースをフォローできるようになっている点。そしてなにより、職員の方がお祭りをとても楽しそうに参加・活動している点である。

●自分の未熟さ

今回の活動を通して多くの職員の方の話を聞き職員の方のお祭りに対する思いや、日々の活動に対する思いを数多く聞いてきた。サービスラーニング活動で自分はとても成長したと同時に、まだまだ出来ていないことが浮き彫りになったのも事実だ。

私は今回のサービスラーニングで出来ていなかった所を繰り返さないように、次のソーシャルワーク実習につなげていきたいと思った。

●活動を通して見えてきた地域活動

今回私は、事前学習の時に、担当の方から NPO 法人ふわりの説明を受けていたため、地域活動を盛んに行っている事は知識として知ってはいた。しかし、実際に私は地域と関わることが、何故そんなに必要なのか分からずにいた。しかし、活動を行うなかで、職員さんが「地域」というものにどんな考えを持っているかが見えてきた。

●利用者さんが生活していくのは地域

担当の方とお話で、施設をつくるのもすごく大変で、まだ「障害者」という差別があるため、ふわりの職員さんはその誤解を解き、利用者さんが活動しやすく、生きやすくするために地域活動を行っている事を知った。ただ楽しいお祭りなのではなく、そのような深い理由があることを今回のサービスラーニング活動で学ぶことができた。

NPO 法人ふわりでは、障害児をむそうで支援し、その障害児が大人になったときの就労支援も行っている。ふわり自体が地域に根ざしていればふわりで活動している利用者は結果地域で生活できている事になる。

●さらなるつながりを求め

NPO 法人ふわりが活動しているのは1つの地区のお祭りだけではなく、数多くの地区のお祭りに参加している。多数の地区でふわりが参加している理由は、それぞれの地区の会長さんたちによって広がったからである。私はこの話を聞き、NPO 法人ふわりはとても地域に根ざしている団体だと感じた。しかし、私たちの活動最終日に職員さんから、「また、このお祭りからいろんなものにつながるといいね」という話を聞いた。現段階に留まらない姿勢が、より多くのつながりを増やしていくのだと気付くことができた。

●この活動記録の総括を終えるにあたって

このレポートを書く段階で私は6日間の活動をじっくり振り返ることができた。そして、このような体験をさせていただいたサービスラーニング関係者の皆様、NPO 法人ふわりの関係者の皆様ありがとうございました。